

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ひばり学園		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 11 月 28 日		～ 令和 7 年 12 月 27 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32 名	(回答者数) 31 名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 11 月 28 日		～ 令和 7 年 12 月 27 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 名	(回答者数) 6 名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 31 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	十分な活動スペースがあり、さまざまなあそびが設定できる。	「からだを動かすあそび」では、サーキット的なあそびをしている。 保育室の半分を暗室にして、光あそび、ハロウィンや納涼お化け屋敷などのイベントをしている。	集団のあそびも個別のあそびもできるので、遊び方の工夫をする。遊具を検討する。
2	親子通園であるため、子どもの育ちや課題を、すぐに保護者と共有できること。	保護者の話をよく聞いて、通園時以外の子どもの姿も知ること。	分離の時間と親子の時間のメリハリをつけ、分離の時に保護者向けの学習会のようなものを(保護者が楽しめる何かを)実施する。
3	リハビリテーション科が同じ施設にあり、療法士と姿を共有できること。 他の職種(主治医、心理士、相談支援専門員など)も同じ施設内にいるので共有できる。	理学療法士が保育参加してくれる時がある。別の視点で子どもをみた意見を聞く機会がある。	リハビリテーション職員ともしっかり連携する。
4	療法士と連携して個別な支援ができる。	同じ施設にリハビリテーション科があるので、担当療法士との情報共有はしやすいが、お互いの支援を見る・知る機会が少ない。	今年度は理学療法士が保育参加をしている。来年度は作業療法士と言語聴覚士も参加の予定。 この機会に得られたことを、どのように利用者に返していけるかを考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子通園だから、来られない方がいる。	併行通園の方が増えたり、共働きの方が増えたりしているため。世の中の変化もある。	早期に療育につなぎ、保護者向けの交流等の時間をつくるなど、保護者に通園するメリットを感じてもらえるようにする。特色をもっとアピールする。
2	いろいろな子どもが通園するようになり、保育内容の見直しが必要になっている。	以前は身体障がい児(重心、医ケア児)を主に受け入れてきたが、運動発達に遅れがある知的障がい児も増えている。遊び方などの工夫はしているが、利用する子どもの変化に、職員や保育が変わっていなかったため、ズレが生じている。	職員で話し合いながら、変えない大切なところと変えるところを考え、保育内容にいかしていく。
1	活動プログラムの固定化。	繰り返して遊ぶことを大切にしている。その経験の積み重ねで育つ姿も見られている。	こどもの育ちに合わせたねらいをもち、それに合わせて工夫をする。 既存の教材に新たな素材やモチーフで変化を加えたり、難易度等工夫をする。 新しい教材も取り入れていく。